

全国学力学習状況調査の分析結果

国語の成果と課題について

【成果】

- A 「情報の整理・工夫の読み取り」の構成メモの工夫を選択する設問や、動画・音声の工夫の効果を選択する設問において、高い正答率が見られ、「理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること」や「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること」が定着しています。
- B 「文章の特徴の把握」の文章の特徴を選択する設問において、高い正答率が見られ、「話や文章の種類とその特徴について理解する」ことができています。
- C 「漢字の書き取り」において、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができ、基礎的な漢字の読み書きについての知識・技能も定着が見られました。

【課題】

- A 「条件に沿った情報の抜き出しと記述」において、文章中の言葉を引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して指定された条件に合わせて書く設問では、不十分な解答が多く見られました。このことを受けて指定された書く条件(必要な情報を過不足なく抜き出すこと・かぎかっこの使用・文字数の上限)の確認や、児童同士で書いた文章を相互確認し、要点をおさえた文章であるか確認する学習活動の場面を多く設けていきます。
- B 「自分の経験と結び付けた記述」の文章を読んで考えたことを自分の経験と結び付けて書く設問において、無解答率が全国値より高くなっています。このことを受けて児童が文章の構成に慣れ、見通しを持ちながら文章を書き進めることができるように、文章(意見文・提案文・感想文)の定型文を示し、最後まであきらめずに自分の言葉で文章を書きあげることができる学習活動の場面を設けていきます。

【書く目的に応じた書く条件の例】

★意見文(提案)

- ①自分の立場を決める。 ②理由を文章(新聞)から引用し、根拠を明確にする。

★推薦文(提案)

- ①物語を要約し、物語のすばらしさを述べる。 ②理由を文章(新聞)から引用し、根拠を明確にする。

★意見文(感想)

- ①自分の感想を述べる。②理由を文章(新聞)から引用し、根拠を明確にする。

算数の成果と課題について

【成果】

A 領域別「測定」の領域、「図形」の領域、「数と計算」の領域の順に高い正答率が見られる。また、無回答率が低く、多くの設問で正答率の高さが見られました

B 「知識・技能」において、基礎的・基本的な計算が身についており、高い正答率が見られました。

【立方体の体積】

一辺が8 cmの立方体の体積について計算による求め方を理解できています。

【カードで作る最大数】

1、5、9の3枚のカードで当てはめてつくることのできる最も大きい数について、小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数をつくることできています。

【時間の計算】

全体で使える時間の中で、「前半」に使える時間は何分間かを求めることについて、示された情報を基に、数量の関係に着目して、条件に合う時間を求めることできています。

【帯グラフ（割合）】

帯グラフから適切な目盛りを読み取ることについて、帯グラフの特徴と使い方を理解し、およその割合を読み取ることができています。

【課題】

A 「式の意味の理解」の単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解する設問において、低い正答率が見られました。単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらの方が混んでいるのか適切に判断することに課題が見られました。何を単位量（基準値）にするのか、求めた商の意味（「1羽当たりの面積」なのか「1㎡当たりの頭数」なのか）について当該学年での指導を大切にしていきます。

B 「二次元表からの条件読み取り」において、二次元の表から条件に合う数を読み取る設問が最も低い正答率となっています。二次元表から指定された項目の意味の理解や、正しく数値を読み取ることに課題が見られました。二次元表の縦（行）と横（列）の項目で表す数値の意味や、データの分類整理の仕方について指導していきます。

C 「根拠や理由を数学的に表現する力」において、異分母の分数の大小を判断し、その理由を通分や小数化などを用いて記述する設問で、低い正答率が見られました。自分の考えを筋道立てて説明することに課題が見られました。数学的事象の理由を数や式を書き加えながら書きまとめたり、数学的用語（通分・約分）や接続詞（すると・なので・だから等）を用いて記述したりする機会を多く設けていきます。

児童質問紙について

【児童質問紙全体を通して】

全体を通して、本校が教育活動の土台となる「児童の人間関係が豊かで、学級の心理的安全性（安心して生活・学習に臨むことができる）が高い教育環境」であることが児童質問紙から読み取れました。その一方で、「児童の自己肯定感の低い児童」や「将来に見通しや夢が持てない児童」が多いこと、「読書習慣が確立されていない児童」や「国語の学習に苦手意識がある児童」が少ないこと、「ICTを活用した情報収集の経験が少ない児童」が一定数いるという今後に向けた明確な課題も読み取ることができました。

【児童質問紙から見える良いところ】

A 学年・学級内における児童の「心理的安全性」と良好な友人関係

「あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思いますか」という設問に対し、「当てはまる」と答えた児童が過半数をこえ、全国や県の平均値を大きく上回っています。また、友達関係の満足度も高く、学年・学級内における児童の「心理的安全性」が確保され、落ち着いた学習環境が整っていることが読み取れました。

B 規則正しい朝の生活習慣の確立

「朝食を毎日食べていますか」という設問に「している」と回答した児童がとても多くいました。また、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」に「している」と回答した児童は全国や県の平均値と比較すると多少ではあるが上回っています。多くの児童の朝の生活習慣が確立され、1日の活動を気持ち良くスタートできる生活習慣が確立し、午前中の学習活動への高い集中力や、安定した情緒の維持につながっていることが読み取れました。

C 算数への高い学習意欲

算数の学習が「好き」と答えた児童が過半数で全国や県の平均値を大きく上回っています。「算数は将来社会で役に立つ」と捉えている児童も約7割で、算数の学習に対して、高い肯定感を持っていることが読み取れました。

【児童質問紙から見える課題】

A 「自己肯定感」の醸成 低さと「将来の夢・目標」の希薄さ

「自分には、よいところがあると思いますか」や「将来の夢や目標を持っていますか」、「人の役に立つ人間になりたいですか」に「当てはまる」と自信を持って答えた児童は過半数を下回り、全国・県の平均値からも下回っています。

自己肯定感や所属感が高まるように、学年・学級内における児童の「心理的安全性」と良好な友人関係を土台とした「認め合い・励まし合い」の言葉をより一層大切にしていきます。

B 「将来の夢・目標」への展望

キャリア学習（職業人講話）や福祉教育（久寺家中区小中一貫オリジナルカリキュラム）の実践を通して、児童が「地域の大人や様々な職業の人と出会う・話を聞く」ことから、「学ぶことがどう未来にどのように繋がるか」を実感することができるようになっています。

C 「国語の学ぶ意欲向上」と、「読書習慣の定着」

国語の学習が「得意」と答えた児童、国語の「授業内容がよく分かる」と答えた児童の割合が、全国・県の平均値と比較すると大きく下回っています。算数とは対照的に苦手意識を持っている児童が多くいることが見られます。

読書は、平日に「全く読書をしない」児童の割合は、全国・県の平均値と比較すると同等の値でした。昼休みに学校図書館（図書室）へ「全く行かない」と回答した児童は過半数弱と多く、全国・県の平均値と比較すると大きな差が生じています。児童の語彙力や読解力を育む「読書環境」が児童の日常生活から遠ざかっていることが、自分の考えを文章に表現することへの抵抗感につながっていると読み取れました。

読書習慣に伴う校内活動（よむよむラリー等）、保護者による“あすなろ読み聞かせ活動”、国語の学習での本の紹介活動（ブックトーク）等を継続・改善し、児童が読書に楽しく親しみながら語彙力を高め、自分の思いを文章で表現する力の向上につながるようにしていきます。

D 学校・家庭における「ICTを活用した情報収集」の経験値向上

児童のICTスキルや意識に関する設問では、「ICTを活用して、情報（データ）を整理する（図や表、思考ツールを使う）」ことができると回答した児童は全国・県の平均値と比較すると大きく下回っています。

二次元表や複合的なグラフから必要な情報を整理したり、抽出したりするために必要な見方や記録方法を児童へ指導した上で、ICTを活用したデータ処理の利便性を児童が経験できるように指導していきます。